

すさみ海域におけるイセエビの資源生態の研究—Ⅲ*

漁獲量，年齢組成および生息分布について

金 盛 浩 吉

目 的

天然におけるイセエビ増殖の基本的な考え方はプエルルス¹の加入場に保育場を造成し，稚仔の生残率の増大を図ることにあるが，イセエビは成長するにしたがい深場に移動する傾向がみられる。この時，成エビの棲場がなければ逸散してしまう可能性があり，逸散防止，棲場拡大のための成エビ用の漁場造成も重要なこととなる。そこで，効果的な漁場造成さらに漁場の適性な資源管理を図るには，その海域の資源の性状（漁獲量の変動，年齢組成，生息分布等）の把握が重要となってくるので，ここでは，これらの資源の性状についての調査を行なった。

方 法

すさみ各地先（小泊，平松，見老津，江須の川，江住，里野）のイセエビ（プエルルスから2年前後経過後の成エビ）の年度別の漁獲量はすさみ漁協各支所の漁獲統計資料を用いて調べた。ここでは長期間の資料が得られなかったので1968～1981年までについて調査した。

年齢組成は各地先で1980～1981年の漁期の始まる前に試験操業を行ない，漁獲したイセエビの体重，体長，頭胸甲長および雌雄を測定し，これらの資料を用いて検討した。

生息分布（稚エビ，若齢エビ，成エビ）は1980～1981年の漁期に各地先で全船による標本漁船調査を行なった。小泊・平松地先の稚エビ（放流エビ）の基準は1979年まで100g（頭胸甲長50mm前後），1980年で150g（頭胸甲長55mm前後），1981年で190g（頭胸甲長60mm前後），他の見老津，江須の川地先では100gとなっている。

なお，各地先の漁場区分は図1～4に示すとおりである。

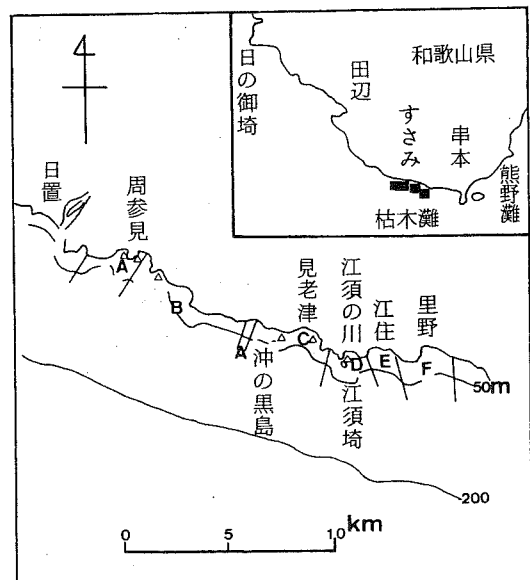


図1 すさみ海域の概要

- | | |
|-----------|-----------|
| A すさみ小泊地先 | B すさみ平松地先 |
| C 見老津地先 | D 江須の川地先 |
| E 江住地先 | F 里野地先 |

* 大規模増殖場開発事業調査費による。

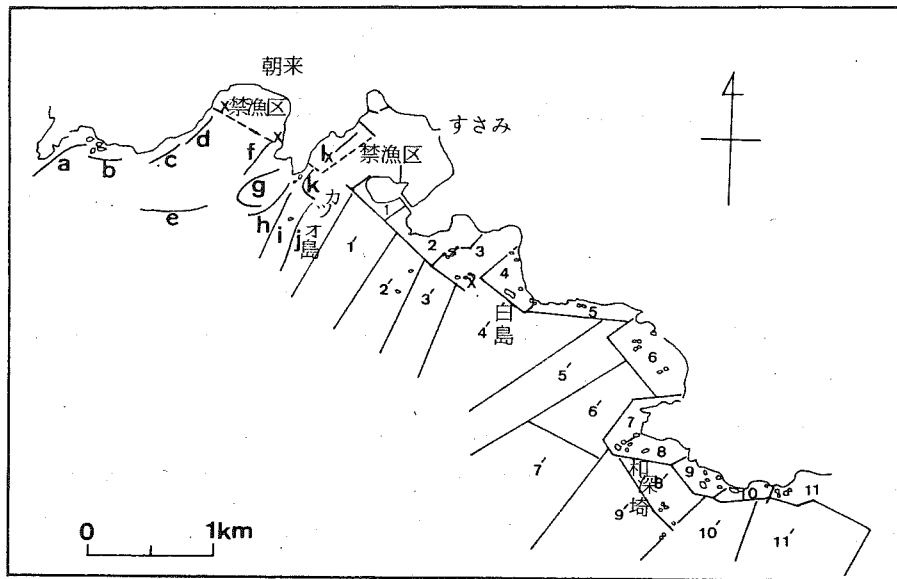


図2 すさみ地先(小泊, 平松)の漁場区分

- × 投石場
- 小泊地先 a: 汐置 b: 船付上 c: 船付下 d: 片添え e: 中瀬
 f: 横津呂 g: 田の尻上 h: 田の尻下 i: 島上 j: 島下
 k: 雄崎のハナ l: 潮の浦
- 平松地先(湯浅) 1: 稲積 2: 下の口 3: 串 4: オモガセ 5: カタジ
 6: 和深の内 7: 和深崎 8: 金島上 9: 金下 10: ノロシ
 11: カタバエ
- 平松地先(深場) 1': 稲積 2': 下の口 3': 小串 4': 大串 5': 和深の内
 6': 和深崎ナダ 7': 和深崎沖 8': 金島下 9': 金島上
 10': ノロシ 11': カタバエ

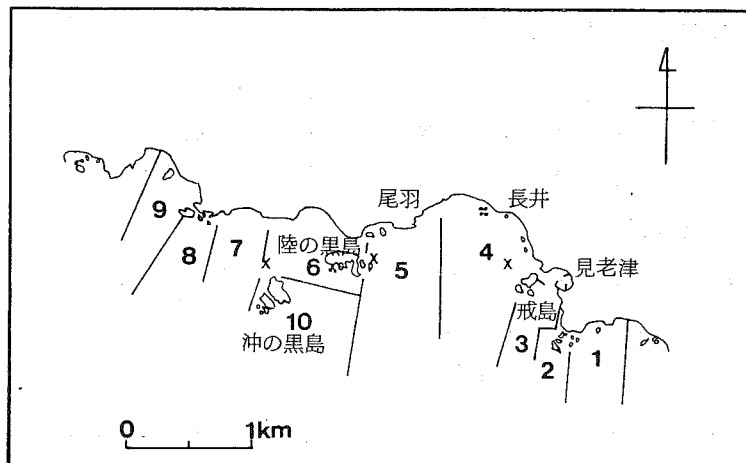


図3 見老津地先の漁場区分

- × 投石場
- 1: スジ 2: ハナ 3: 浦 4: 長井 5: オワ 6: 黒島内
 7: コゴロソ 8: 千大 9: ナギソ 10: 黒島

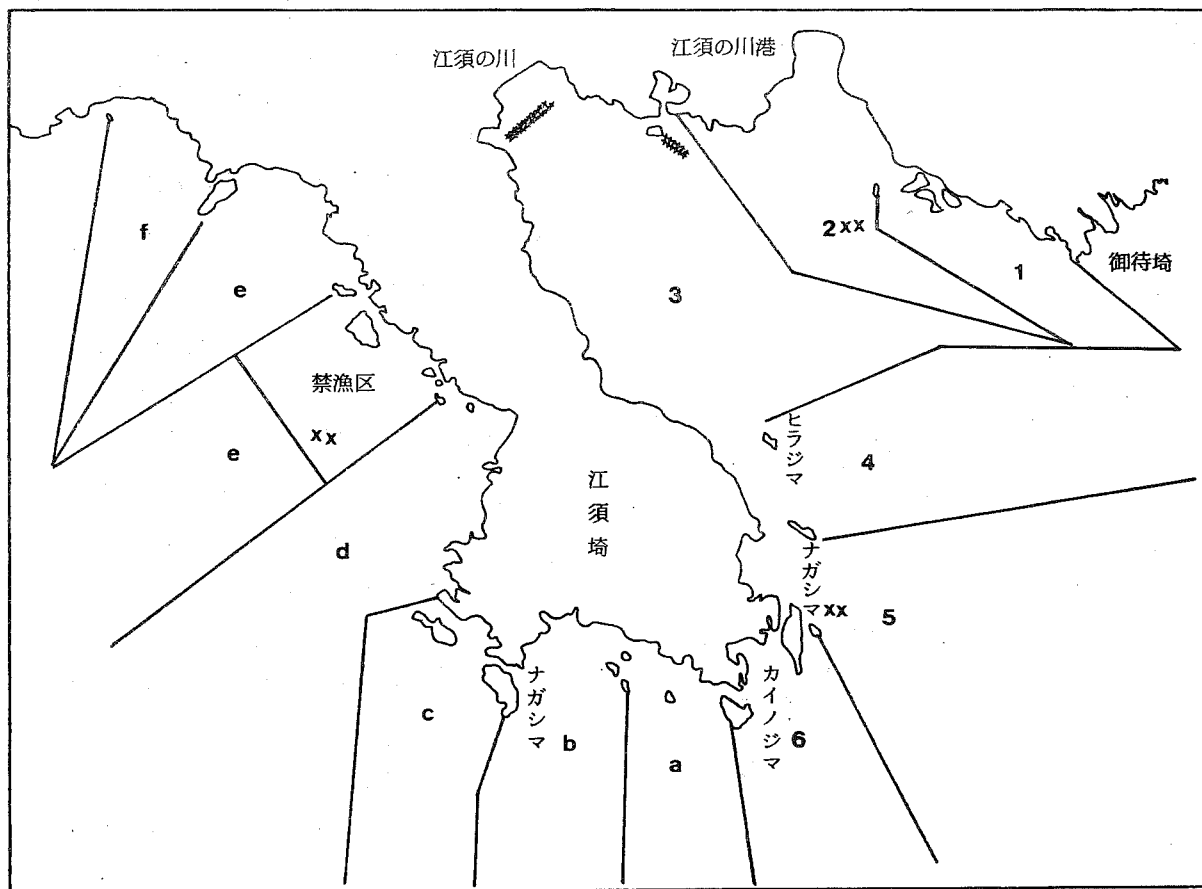


図4 江須の川の漁場区分
x 投石場

結果および考察

1. 成エビの漁獲量の変動

各地先毎の年度別 (n 年秋 ~ ($n + 1$) 年) の漁獲量を図5に示す。但し、見老津、江須の川、江住、里野の各地の漁期は10~12月、小泊地先は1976年頃より10~12月、平松地先のみが10~4月までの漁期となっている。まず、すさみ地先全体の漁獲量の変動についてみると、ピークは1969年の約36トンであるが、その後、減少傾向を示し、1977年には12トンとピーク時の $\frac{1}{3}$ の漁獲量となる。

次に、各地先毎の漁獲量を見ると図に見られるように、見老津地先は1969年にピークの9.4トンを示す。平松地先は見老津地先とほぼ同程度の漁獲量の変化を示しているが、1979年には両地先共2.2~2.7トンとピーク時の $\frac{1}{4}$ にまで減少している。続いて、漁獲量の多いのは小泊地先と江須の川地先である。小泊地先の漁獲量は1973年から1977年頃までの間では平松、見老津の各地先の漁獲量と差がみられたが、1978年頃からはほぼ同様の値を示している。そして、1981年の漁獲量は4.6トンと近年最高の漁獲量となっている。江住、里野の各地では他の地先より漁獲量はかなり少ない。ピ

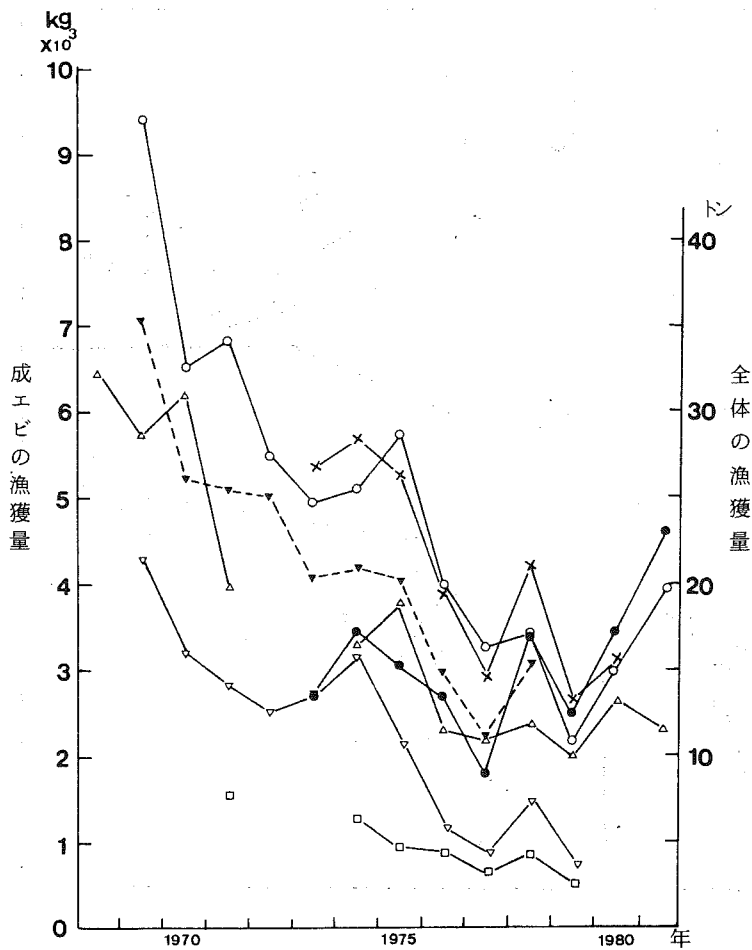


図5 成エビの年度別の漁獲量

- × すさみ平松地先 ○ すさみ小泊地先 ○ 見老津地先
- △ 江須の川地先 □ 江住地先 ▽ 里野地先
- ▼ 全体の漁獲量

一ク時の漁獲量については資料がなくはっきりしないが、近年では1トン前後の漁獲量である。

2. イセエビの年齢組成

各地先毎の試験操業で漁獲したイセエビの頭胸甲長をヒストグラムで表わすと図6-1~3のようになる。頭胸甲長と年齢との関係については、イセエビの場合年齢形質がないため、図7-1~2に示す熊野灘海域における標識放流再捕結果の資料を用いる。図にみられるように成長は雄、雌共直線式に分解できる。これより、各年齢毎に頭胸甲長の値を読みとり、Walfordの定差図にあてはめると図8-1~2のようになる。さらに図より Bertalanffyの成長式を求めると、

雄

$$l_t = 119.8 \{ 1 - e^{-0.205(t+0.997)} \}$$

雌

$$l_t = 98.2 \{ 1 - e^{-0.185(t+1.846)} \}$$

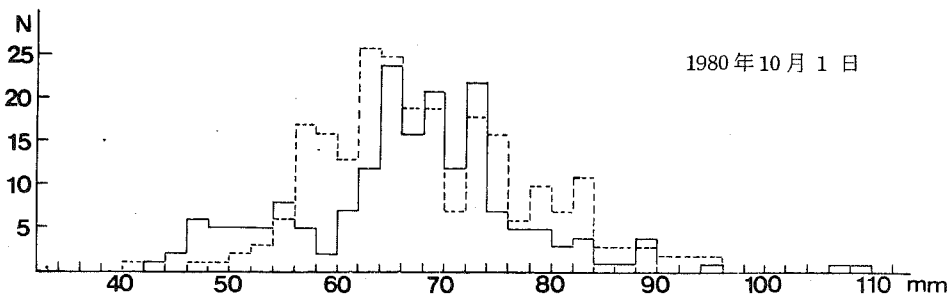


図6-1 すさみ平松地先のイセエビの頭胸甲長組成

- ♂
- ▨ ♀

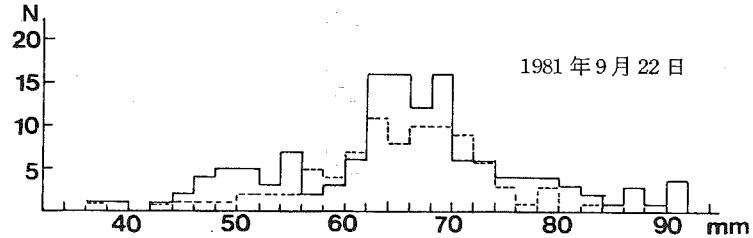
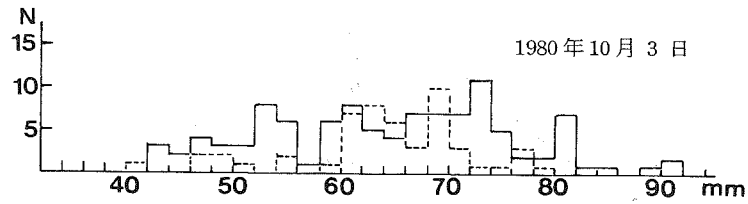


図 6-2 見老津地先のイセエビの頭胸甲長組成

□ ♂ □ ♀

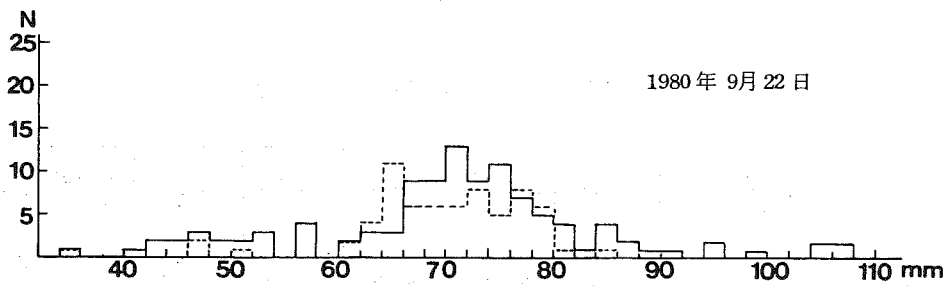


図 6-3 江須の川地先のイセエビの頭胸甲長組成

□ ♂ □ ♀

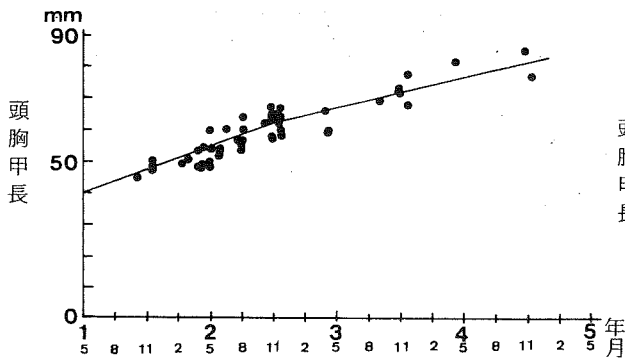


図 7-1 年齢と頭胸甲長の関係 (♂)

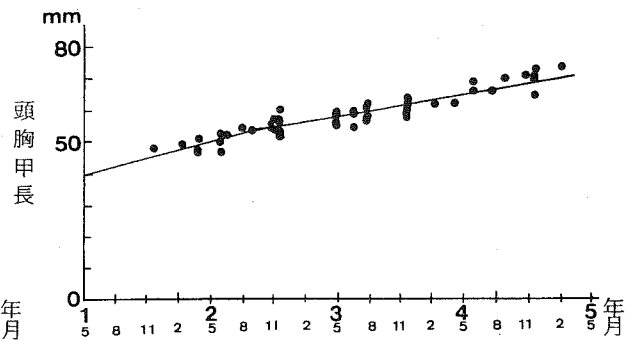


図 7-2 年齢と頭胸甲長の関係 (♀)

となる。標識放流の調査結果より Bertalanffy の成長式を求めることに問題点が残されるが、これらの結果より漁獲イセエビを年齢別に分離すると表 1 のようになる。

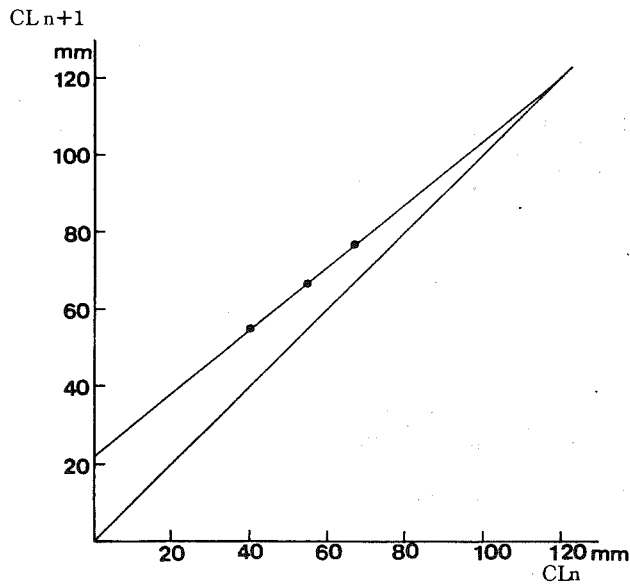


図 8-1 イセエビの生長定差図(♂)

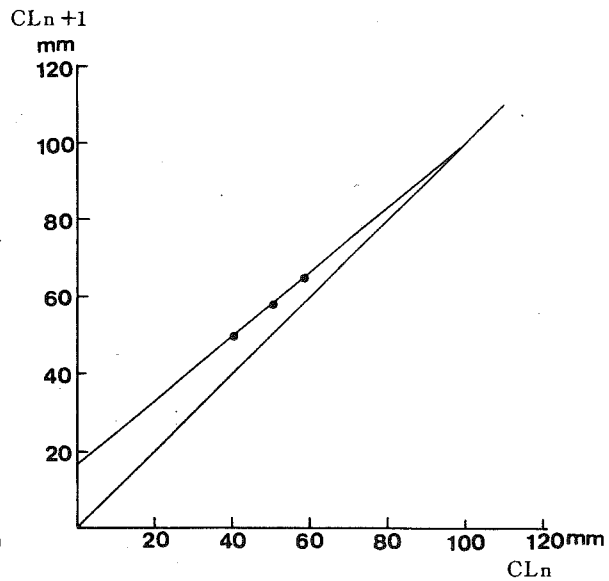


図 8-2 イセエビの生長定差図(♀)

表 1 各地先毎の年齢群別の割合

	0 齢群 %	1 齢群 %	2 齢群 %	3 齢群 %	4 齢群 %	5 齢群 %	6 齢群 以上 %	測 定 尾 数
すさみ平松 ♂ 1980年10月1日 ♀		14.5 0.8	32.2 15.7	40.3 25.5	8.0 21.7	3.2 17.8	0.6 17.8	186 235
見老津 ♂ 1980年10月3日 ♀		23.5 9.4	30.1 9.4	28.3 35.8	11.3 32.0	3.7 7.5	5.6	106 53
見老津 ♂ 1981年9月22日 ♀	1.4 1.0	15.9 4.3	38.4 12.0	30.4 29.6	7.2 28.5	6.5 17.5	6.4	138 91
江須の川 ♂ 1980年9月22日 ♀	1.8 0.1	12.6 4.3	14.4 0.1	45.0 17.3	12.6 28.9	6.3 27.6	7.2 17.3	112 69

各地先の生息エビの主体を占めるのは各地先共雄で2齢群～4齢群，雌では3齢群～5齢群となる。特に，平松と江須の川の各地先では6齢以上の高齢エビの漁獲も多い。江須の川地先は禁漁区を試験操業したこともよるが，各地先の漁場により，生息するイセエビの年齢組成も異なることも考えられる。

各地先の放流エビにあたる1齢群は雄で12.6～23.5%，雌で0.8～9.4%となり，すさみ海域は添加群の少ない漁場であることが窺える。

3. イセエビの生息分布

1) 小泊地先

各漁場毎の稚エビ，成エビの生息状況を表2～3に示す。1980年の結果をみると，稚エビの漁獲

表 2 小泊地先の各漁場毎のイセエビの生息状況(1980年11月2日~12月31日)

漁場名	使用反数	成エビの漁獲量 kg	稚エビの漁獲尾数 (150g 以内)	1反当りの稚エビの漁獲尾数	1反当りの漁獲量 kg	成エビの漁獲尾数	1反当りの成エビの漁獲尾数	稚エビの占める割合 %
汐置	258	241.55	168	0.65	0.93	761	2.9	18.0
船付上	266	162.2	73	0.27	0.60	504	1.8	12.6
// 中	42	14.6	15		0.34	38	0.9	
// 下	230	113.98	60	0.26	0.49	358	1.5	14.3
片添え	240	233.85	52	0.21	0.97	641	2.6	7.5
中瀬	214	215.3	71	0.33	1.00	618	2.8	10.3
横津呂	282	308.7	92	0.32	1.09	914	2.9	9.1
田の尻上	268	299.9	39	0.14	1.11	867	3.2	4.3
// 下	252	318.35	73	0.28	1.26	944	3.7	7.1
// 沖	18	11.2	1		0.62	30	1.6	
鯉島上	262	395.35	79	0.30	1.50	1,206	4.6	6.1
// 下	270	340.1	118	0.43	1.25	1,119	4.1	9.5
潮の浦	344	440.05	103	0.29	1.27	1,260	3.6	7.5
雄崎ノ鼻	140	213.2	48	0.34	1.52	640	4.5	6.9
小津呂*	74	57.15	23	0.31	0.77	168	2.2	12.0
高浜*	70	56.25	41	0.58	0.80	177	2.5	18.8
合計	3,230	3,421.73	1,056	0.33	1.05	10,245	3.1	9.3

* 小津呂・高浜の各漁場は見老津地先漁場付近
1反=180m

表 3 小泊地先の各漁場毎のイセエビの生息状況(1981年10月25日~12月30日)

漁場名	使用反数	成エビの漁獲量 kg	稚エビの漁獲尾数 (190g 以下)	1反当りの稚エビの漁獲尾数	1反当りの漁獲量 kg	成エビの漁獲尾数	1反当りの成エビの漁獲尾数	稚エビの占める割合 %
汐置	306	278.65	444	1.45	0.91	829	2.7	34.8
船付上	286	170.40	195	0.68	0.59	480	1.6	28.8
// 中	316	174.05	259	0.81	0.55	477	1.5	35.1
// 下	366	256.30	339	0.92	0.70	729	1.9	31.7
// 奥	8	1.1	6		0.13	3	0.3	
片瀬之中瀬	380	327.0	376	0.98	0.86	946	2.4	28.4
横津呂奥	356	333.92	263	0.73	0.96	886	2.4	22.8
// 口	252	211.05	224	0.88	0.83	637	2.5	26.0
田の尻	30	77.85	33		2.59	224		
// 上	324	372.65	200	0.61	1.15	1,076	3.3	15.6
// 下	308	486.6	327	1.06	1.57	1,393	4.5	19.0
// 沖	30	55.45	14		1.84	152		
鯉島上	344	477.07	412	1.19	1.38	1,491	4.3	21.6
// 下	294	496.70	598	2.03	1.68	1,488	5.0	28.6
潮の浦	334	399.25	296	0.88	1.19	1,159	3.4	20.3
小津呂*	210	349.95	232	1.10	1.66	974	4.6	19.2
高浜*	144	160.70	127	0.88	1.11	448	3.1	22.0
合計	4,288	4,628.69	4,345	1.01	1.07	13,392	3.1	24.4

* 小津呂・高浜の各漁場は見老津地先漁場付近
1反=180m

尾数が多いのは汐置，鯉島下，潮の浦，横津呂等の漁場であるが，漁獲尾数は漁場面積，漁獲努力量等により変化すると考えられるのでCPUE（漁獲尾数/反）を基準として比較してみると，やはり，同様に汐置（0.65尾），鯉島下（0.43尾），潮の浦（0.36尾）等の漁場が高い値を示している。稚エビの占める割合はCPUEの一番高い汐置で18%，ついで，鯉島下で7.1%，潮の浦で9.5%となっている。地先全体では9.3%である。

成エビの生息分布をみると，漁獲尾数が多いのは鯉島周辺，横津呂から田の尻の間であり，これらの漁場で全体の50%近くを漁獲する。また，潮の浦（禁漁区1980年解禁）も好漁場となっている。これらの漁場はCPUEでも3.4～4.3尾と高い値を示しており，成エビの多い漁場とみてもよいだろう。

続いて，1981年の結果をみると，稚エビ，若齢エビの漁獲尾数が多いのは1980年と同様汐置，鯉島周辺等の漁場となっており，CPUEも1.19～2.03尾と他漁場に比べ高い値を示している。稚エビ，若齢エビの占める割合は汐置で34.8%，鯉島上，下で21.6～28.6%，地先全体では24.4%である。

1980年では稚エビの体重制限は150gであり，雄では2齢前半群，雌で2齢後半群以下にあたる。そして1981年では190g以下であり雄では2齢後半群，雌では3齢前半群まで含まれている。150g以下の占める割合が両年であまり差がないものと仮定すると，2齢後半群～3齢前半群は地先全体でみると約15%程度となる。

次に，成エビの生息分布をみると，1980年と同様潮の浦，鯉島周辺，田の尻の間での漁獲尾数が多く，またCPUEも3.3～5.0差と高い。そして，これらの漁場で全体の約50%を漁獲している。

2) 平松地先

各漁場毎の稚エビ，成エビの生息状況を表4～6に示す。まず，表4より1980年の浅場漁場の結果をみると稚エビの漁獲尾数が多いのはカタジ，カタバエ等の漁場で約150尾，CPUEでは0.68～

表4 平松地先の各漁場毎のイセエビの生息状況（浅場漁場）（1980年11月2日～12月16日）

漁場名	使用反数	成エビの漁獲量 kg	稚エビの漁獲尾数 (150g以下)	1反当りの稚エビの漁獲尾数	1反当りの漁獲量 kg	成エビの漁獲尾数	1反当りの成エビの漁獲尾数	稚エビの占める割合 %
稲積	218	155.95	71	0.32	0.71	510	2.3	12.2
下の口	218	128.19	74	0.33	0.58	434	1.9	14.5
串	218	173.59	107	0.49	0.79	539	2.4	16.5
オモガセ	218	142.32	130	0.59	0.64	452	2.0	22.3
カタジ	218	158.17	152	0.69	0.72	528	2.4	22.3
和深の内	218	121.65	115	0.52	0.55	391	1.7	22.7
和深崎	218	103.72	105	0.48	0.47	345	1.5	23.3
金島上	218	71.73	59	0.27	0.32	231	1.0	20.3
金島下	216	120.14	107	0.49	0.55	432	2.0	19.8
ノシロ	216	161.44	129	0.59	0.74	585	2.7	18.0
カタバ撰	216	152.28	149	0.68	0.70	536	2.4	21.7
合計	2,392	1,488.18	1,198	0.50	0.62	4,983	2.0	19.3

1反=180m

表 5 平松地先の各漁場毎のイセエビの生息状況(深場漁場)
(1980年12月27日~1981年4月14日)

漁場名	使用反数	成エビの漁獲量 kg	稚エビの漁獲尾数 (150g以下)	1反当りの稚エビの漁獲尾数	1反当りの漁獲量 kg	成エビの漁獲尾数	1反当りの成エビの漁獲尾数	稚エビの占める割合 %
稲積	350	154.98	51	0.14	0.44	454	1.2	10.0
下の口, 串	510	231.47	80	0.15	0.45	690	1.3	10.3
和深の口	360	141.23	46	0.12	0.39	404	1.1	10.2
和深崎	408	388.36	103	0.25	0.95	1,124	2.7	8.3
金島	672	542.64	118	0.17	0.80	1,533	2.2	7.1
ノカタバエ	526	184.68	59	0.11	0.35	513	0.9	10.3
合計	2,826	1,643.36	457	0.16	0.58	4,718	1.6	8.8

1反=180m

表 6 平松地先の各漁場毎のイセエビの生息状況(浅場漁場)
(1981年10月25日~12月5日)

漁場名	使用反数	成エビの漁獲量 kg	稚エビの漁獲尾数 (190g以下)	1反当りの稚エビの漁獲尾数	1反当りの漁獲量 kg	成エビの漁獲尾数	1反当りの成エビの漁獲尾数	稚エビの占める割合 %
稲積	246	350.51	317	1.28	1.42	1,167	4.7	21.3
下の口	244	338.32	268	1.09	1.38	1,151	4.7	18.8
串	248	278.05	191	0.77	1.12	846	3.4	18.4
オモガセ	246	200.40	246	1.0	0.81	711	2.8	25.7
カタジ	248	302.15	321	1.29	1.21	1,067	4.3	23.1
和深の内	246	164.50	170	0.69	0.66	543	2.2	23.8
和深崎	248	157.15	202	0.81	0.63	566	2.2	26.3
金島上	246	157.50	155	0.63	0.64	550	2.2	21.9
金島下	248	225.70	255	1.02	0.91	811	3.2	23.9
ノロシ	244	292.23	342	1.40	1.19	1,025	4.2	25.0
カタバエ	244	294.35	279	1.14	1.20	1,000	4.0	21.8
合計	2,708	2,760.86	2,746	1.01	1.02	9,437	3.4	22.5

1反=180m

0.69尾, 稚エビの占める割合は21.7~22.3%である。次いで, 漁獲尾数, CPUEの値が高くなるのはオモガセ, ノロシ, 和深の内等の漁場で漁獲尾数約130尾, CPUE 0.52~0.59尾となる。なお, 稲積漁場は漁獲尾数, CPUE共に低い値となっているが, この場所には平松地先の防波堤があり, プエルルス調査¹⁾でみられたように, プエルルスの着底場となっているが, 着底したプエルルスは成長するにしがたい平松地先の沖合漁場, また, 小泊地先の潮の浦漁場への移動が多いのではないかと推測される。地先全体での稚エビの占める割合は19.3%となる。

成エビの漁獲尾数が多いのはノロシ漁場で次いで, 串, カタバエ, カタジ, 稲積の順となっていくが, 各漁場共大きな差がみられない。漁獲尾数が少ないのは和深の内から金島上の漁場にかけてである。

続いて, 表5より深場漁場における結果をみると, CPUEは各漁場共0.11~0.25尾の低い値となっている。稚エビの占める割合は各漁場共あまり差がなく7.1~10.3%, 地先全体では8.8%とな

る。これは、浅場漁場の半分の値であり、稚エビは浅場に多く分布していることがわかる。

成エビの生息分布をみると漁獲尾数が多いのは和深崎、金島の各漁場であり全体の56%の漁獲をあげている。この周辺の漁場は前述したように浅場漁場では生息密度が低かったことよりみると、深場の方が生息密度の高い好漁場になっていることが窺える。

次に、表6より1981年浅場漁場の結果をみると、稚エビ、若齢エビの漁獲尾数が多いのはノロシ、カタジ、稲積等の漁場でCPUEでみると1.28~1.40尾の値となる。これらの各漁場の稚エビ、若齢エビの占める割合は21.3~25%である。1980年の結果では稲積は稚エビの少ない漁場であったが、1981年でも同様の比率と仮定すると、この漁場は若齢エビの多い漁場であることが窺える。しか

し、1980年では一般に、他漁場は稚エビの比率の高い傾向を示しており、全体的には2齢後半群~3齢後半群の極端に少ない漁場となっている。

1980年、1981年の小泊、平松地先における各漁場毎の稚エビと成エビの生息関係を検討するため、図9に稚エビのCPUEと成エビのCPUEとの関係を、さらに、図10に稚エビ、若齢エビのCPUEと成エビのC

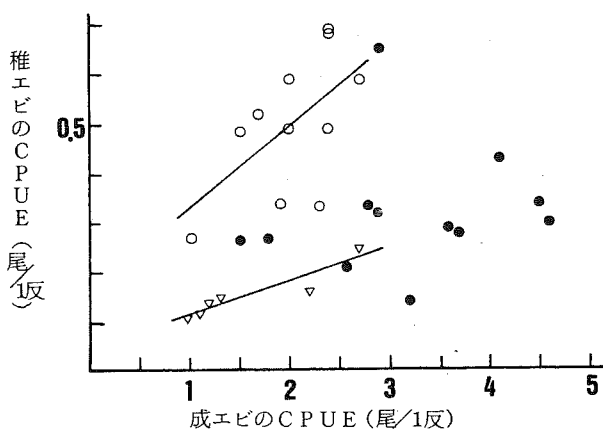


図9 各漁場毎の稚エビのCPUEと成エビのCPUEとの関係 (1980年)

- すさみ平松 (浅場漁場)
- すさみ小泊
- ▽ すさみ平松 (深場漁場)

PUEとの関係を示してある。稚エビのCPUEと成エビのCPUEとの関係をみると、図10にみられるように各地先の漁場特性が表われているようにみられる。すなわち、平松地先の浅場漁場では稚エビの比率の高い漁場、そして、深場漁場では稚エビ、成エビのCPUEが共に低い漁場というみかたができる。これに比べ、小泊地先では平松地先の浅場漁場、深場漁場の中間的な位置づけとなっている。それから、平松地先では稚エビのCPUEと成エビのCPUEとの関係にはある程度の相関関係 (浅場漁場 $r=0.74$, 深場漁場 $r=0.93$) がみられるが、小泊地先

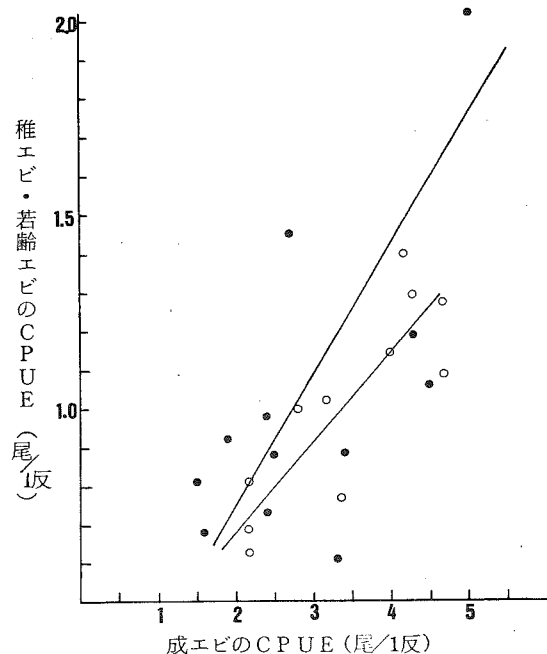


図10 各漁場毎の稚エビ、若齢エビのCPUEと成エビのCPUEとの関係 (1981年)

- すさみ小泊
- すさみ平松 (浅場漁場)

では汐置漁場にみられるように、稚エビのCPUEは高いが、成エビのCPUEが低いところもあり相関関係 ($r=0.15$) がみられない。

続いて、図10より稚エビ、若齢エビを含んだ場合でみると小泊地先と平松地先との漁場特性の違いがあまりみられなく同様の傾向を示している。また、稚エビのCPUEと成エビのCPUEとの相関関係においても小泊地先では稚エビのCPUEで比較した時に比べると相関関係 ($r=0.63$) が高くなっている。

3) 見老津地先

各漁場毎の成エビの生息状況を表7に示す。但し、表には1980年10月29日～11月14日までの漁期の結果を示してある。また、稚エビの各漁場毎の漁獲尾数については野帳記入が不正確であったので、成エビの漁獲状況のみを示した。成エビの生息分布をみると、漁獲尾数が多いのは沖の黒島と浦の各漁場で、他の漁場よりかなり高い値を示している。特に、浦漁場の漁港防波堤のテトラポッドが好漁場となっている。漁獲尾数の少ない漁場はコゴロソからナギリの間の漁場であり、沖の黒島の半分程度の漁獲量である。その他の漁場はほぼ同程度となっている。

表7 見老津地先の各漁場毎のイセエビの生息状況
(1980年10月29日～11月14日)

漁場名	使用反数	成エビの漁獲量 kg	成エビの 漁獲尾数	1反当りの成エビの 漁獲尾数	1反当りの漁獲 量 kg
スジ	208	190.9	659	3.8	0.91
ハナ	208	174.1	589	2.8	0.83
浦	204	206.7	908	4.4	1.01
長井	212	203.6	777	3.6	0.96
オワ	204	193.3	701	3.4	0.94
黒島内	212	196.5	482	2.2	0.92
コゴロソ	200	137.6	488	2.4	0.68
千丈	212	171.3	594	2.8	0.80
ナギリ	204	125.2	431	2.1	0.61
黒島	208	309.5	956	4.5	1.48
合計	2,072	1,908.7	6,585	3.1	0.92

1反=150 m

4) 江須の川地先

各漁場毎の稚エビ、成エビの漁獲状況を表8に示す。なお、稚エビの占める割合を検討するにあたり、今回の資料では成エビの漁獲尾数が把握できなかったもので、試験操業で測定したすさみ地先の頭胸甲長50mm以上の平均体重(測定尾数681尾の平均体重310g)から成エビの漁獲尾数を推定した。

稚エビの生息分布を漁獲尾数でみると、内磯では江須の川港周辺の2番、3番の漁場が多く、稚エビの占める割合は16.5%となる。外磯では禁漁区が19.6%と高い値を示している。試験操業の頭胸甲長測定結果(漁場は外磯禁漁区)では50mm以下の稚エビの占める割合が7.7%と低い値となっているが、これは禁漁後最初の操業であり、大きいイセエビが中心に漁獲されたため差が生じているものと思われる。他の漁場では一般に4.5～9.7%の範囲で、地先全体の稚エビの占める割合は9%となる。

表 8 江須の川地先の各漁場毎のイセエビ生息状況
(1980年10月2日~12月10日)

漁場名	No.	使用反数	成エビの漁獲量 kg	稚エビの漁獲尾数 (100g以下)	1反当りの稚エビの漁獲尾数	1反当りの漁獲量 kg	成エビの推定漁獲尾数	1反当りの成エビの漁獲尾数	稚エビの占める割合 %
	1	104	90.7	54	0.51	0.87	292	2.8	15.6
内磯	2,3	240	246.4	157	0.65	1.02	794	3.3	16.5
	4,5	292	305.2	84	0.28	1.04	984	3.3	7.8
	6	408	387.2	72	0.17	0.92	1,249	3.0	5.4
外磯	a	300	287.0	44	0.14	0.95	925	3.0	4.5
	b	336	386.5	80	0.23	1.15	1,246	3.7	6.0
	c, d	564	571.1	200	0.35	1.01	1,842	3.2	9.7
	e, f	188	170.0	59	0.31	0.90	548	2.9	9.7
禁漁区		84	148.0	117	1.39	1.76	477	5.6	19.6
合計		2,516	2,592.1	867	0.34	1.03	8,357	3.3	9.3

1反=150 m

成エビの生息分布をみると、内磯一番の漁場を除けば各漁場共ほぼ同程度の漁獲量を示しているが、一般的には江須崎周辺の漁場が好漁場となっていることがわかる。特に、CPUEでみると外磯禁漁区が5.6尾と大きい値を示している。

以上、すさみ海域のイセエビの生息分布および年齢組成等について検討を行ってきたが当海域のイセエビは雌雄共3年齢~5年齢の高齢エビが主体となり、稚エビの(添加群)の少ない資源性状を示している。熊野灘海域では稚エビあるいは2年齢前後の若齢エビを主体とした年齢組成となっており²⁾、これらの各海域における資源性状の違いについては前報¹⁾で述べたように資源添加の基本となるプエルルス加入量の違いが基となっているものと推測される。

すさみ地先の漁業者はとりすぎないように漁獲期間を短くする、あるいは放流エビの基準を漁業調整規則より大きくする等の資源管理方策をとり資源維持に努めているが適切な資源管理と考えられる。

文 献

- 1) 金盛浩吉, 1982年12月: すさみ海域におけるイセエビの資源生態の研究-I プエルルスについて, 本誌昭和56年度, 138~154.
- 2) 金盛浩吉, 金丸誠司, 1980年12月: 熊野周辺海域におけるイセエビの資源生態の研究, 本誌昭和54年度, 107~185.